

第443回大野市議会定例会 教育長所信表明

本日、令和7年3月第443回大野市議会定例会の開会に当たり、教育行政につきまして、その所信を述べる機会をいただき、深く感謝申し上げます。

本年度より、開成・陽明の2中学校体制がスタートし、ほぼ1年が経とうとしています。出会えた仲間を互いに尊重し、新しい学校文化を創ってくれていることを心からうれしく思いますとともに、誠心誠意取り組んでいる教職員に心から敬意を表します。

さらに1年後には小学校の再編が控えています。学校再編を機に、多方面にわたり教育環境と子育て環境の総合的な整備を丁寧に進めていきます。

0才から18才までの18年をつなぐ教育の推進も大きなテーマの1つです。本市の特色を生かしたきめ細かな保幼小中高の連携を進めていきます。

その一環として、昨年度と本年度の2カ年をかけて通学区域を検討しました。昨年度は、卒業生が開成中学校と陽明中学校に分かれて進学している有終西小学校の中学校の通学区域を令和8年4月から開成中学校とすることとしました。

本年度は、同様に卒業生が2つの中学校に分かれている有終東小学校において、開成中学校に進学している区域の児童は、令和8年4月より有終南小学校に入学することとしました。

このことにより、原則、同じ小学校を卒業する児童は同じ中学校へ進学することになり、令和8年度の小学校の再編と併せて、小学校と中学校の連携強化に向けた教育環境が整うこととなります。

今後は、18年をつなぐ保育内容や教育内容、指導方法等のさらなる充実に取り組んでいきます。

それでは、新年度の教育行政の考え方と主な施策の概要について、本市の教育に関する大綱に掲げる項目に沿って申し上げます。

まず、第1の項目「子育て」について申し上げます。

新年度は、「大野市こども・若者計画」のスタートの年となります。計画の基本理念である「こどもイキイキ・若者ワクワク・子育てキラリ」の実現に向け、各種施策を着実に推進し、全てのこどもや若者、子育て世代がウェルビーイングな生活を送ることができるよう市民や各種団体、事業所などの協力を得ながら取組を進めます。

不安を取り除くためのサービスを伝える情報発信と支援を必要とする人に伝わる情報発信を意識し、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」や「結婚・子育てハンドブック」などを活用し積極的に発信していきます。

計画に掲げる施策の方向性で申し上げますと、「こども・若者の成長のための社会環境の整備」では、安全性の向上と環境の充実を目指し、上庄放課後こども教室を上庄小学校内で実施できるよう取り組めます。また、有終南小学校と富田小学校で、校舎の改修を実施するにあたり、校舎内に放課後の居場所を確保するとともに、教室の環境整備や支援員などの人

材確保に取り組みます。

「教育・保育サービスの提供」では、健康と成長をサポートするとともに、保護者の負担軽減を図るため、全ての公立保育園と一部の民間認定こども園で、3歳以上の児童への主食提供の取組を拡大します。

「地域における子育て支援」では、先月25日にオープンしたおおの天空パークOSORAで、子育て世代の交流や父親の育児参加が促進されるよう、指定管理者との連携を十分に図っていきます。

次に、第2の項目「学び」について申し上げます。

18年をつなぐ教育を進めるために、本年度、小・中・高等学校の校長による「結・協議会」を立ち上げました。従来の中学校と高校の連携を目的とした協議体を小学校にまで広げ、大野市における小中高の連続性について検討しています。新年度は、保育園・こども園関係者の意見も反映させ、乳幼児期から成人として高校を卒業するまでの18年間をつないで、優しく賢くたくましい大野人を育成するための取組を充実させます。

本年度、中学校が2校体制となりました。生徒たちが楽しく生き生きと学校生活を送ることができるよう学校と教育委員会が緊密に連携し見守っていきます。

令和8年4月の小学校再編に向けては、再編準備委員会を中心にさまざまな協議を重ねています。対象となる児童や保護者の希望と期待に沿えるよう、今後も丁寧に対応していきます。

学校改修については、本年度末までに2校の中学校と下庄小学校の校舎改修工事を終え、新年度は、駐車場などの外構工事を行います。また、新たに有終南小学校と富田小学校の校舎等の改修工事を始めます。

「魅力ある学校づくり」に向けて、「確かな学力を育む学校づくり」と「安心して通える学校づくり」の2本の柱を掲げて取り組んでいます。

「確かな学力を育む学校づくり」については、小学校を対象とした大野市独自の学力調査を引き続き実施し、国や県の調査と合わせ、小中学校の全学年で学力を把握できる体制を維持します。調査結果をもとに、本年度は教員を対象とした学力向上研修会を3回開催し、児童生徒の学力の確実な定着につなげています。

「学ビバ」と称した教員の興味関心やニーズに応じた学び合いの場の提供や福井大学教授による校内研究アドバイザーとしての学校訪問、福井大学教職大学院への教員派遣など、日常的に教員がスキルアップできる仕組みも充実させます。

福井SDGsパートナーやおおのSDGsパートナー連絡協議会の一員として、ふるさと大野に学び、大野から発信する活動を通し、ふるさとに誇りと愛着をもつ子を育てます。また、多様な体験や人との出会いから、自分の生き方や将来について考えられる子を育成します。

その成果の一端として、福井県教育委員会主催の「ふるさと福井CMコンテスト」小学生の部で、阪谷小学校が優秀賞を受賞しました。また、「ふるさとの学び特別賞」で、和泉小

学校が優秀賞を、上庄小学校が奨励賞を受賞しました。

仁愛大学が主催する福井SDGsアワードで、上庄小学校が学生部門の最終審査会に出場できる5校に選出されました。来月9日に行われる本選で、4校の高校生に交じって、ミズコンポストの取組を発表します。

今後も地域の課題に向き合う子どもたちの活動を積極的に支援していきます。

日本新聞協会主催「第15回いっしょに読もう！新聞コンクール」で、上庄小学校が優秀学校賞に輝き、同校6年生の印牧柚弥さんと能登陽花さんが奨励賞を受賞しました。

全国学校図書館協議会主催「第70回青少年読書感想文全国コンクール」で、小学校高学年の部において、有終南小学校6年生の山田(やまだ)愛華(あいか)さんが全国学校図書館協議会長賞を、同校が学校賞を受賞しました。

先月19日に開催された、天皇盃第30回都道府県対抗男子駅伝競走大会で、陽明中学校3年生の向岩玖恩さんが、福井県チームの第2区を担当し、区間6位という力走を見せてくれました。また、今月6日に行われた、第62回全国中学校スキー大会のクロスカントリ一競技男子5キロメートルフリーの部で、陽明中学校2年生の村松徹郎さんが、7位入賞を果たしました。

さらに、有終南小学校の村下公美子事務職員が、学校運営の改善が評価され福井県優秀教職員表彰を受賞しました。

子どもたちがふるさと大野を愛し、心豊かに育ってくれていることを大変嬉しく思いますとともに、それを支える教職員も一丸となって魅力ある学校づくりに取り組んでいることに心から敬意を表します。

「安心して通える学校づくり」については、不登校の未然防止を目的に取組を進めています。

児童生徒が自己存在感や充実感を感じられる「居場所づくり」を教員が積極的に進めるとともに、児童生徒が自ら主体的に取り組む「絆づくり」により、「学校が楽しい」と思える環境づくりを推進しています。

児童生徒に寄り添いサポートする結の故郷教育支援員や相談員も欠かせない存在です。スクールソーシャルワーカーや関係機関とも連携を図りながら、教室はもとより、教室以外でも安心して過ごせる場所や学べる環境をつくり、児童生徒一人一人をきめ細かく支援していきます。

本年度から2つの中学校に配置された校内サポートルーム支援員が学習支援を行い、登校しぶりから立ち直れたり教室への復帰につながったりしています。新年度もこの取組を継続し充実を図っていきます。

休日の部活動の地域移行については、国の改革推進期間の最終年度にあたる令和7年度を前に、本年度、休日に活動してきたすべての運動部と文化部を地域クラブに移行することができました。ご理解をいただいている地域クラブの関係者に心から敬意を表し感謝を申し上げます。

地域移行検討委員会やアンケート等で見えてきた課題を解決し、より活動しやすい環境の整備を進めるとともに、令和8年度以降の対応について検討します。

次に、第3の項目「ひと・地域」について申し上げます。

生涯学習については、令和4年に策定した「大野市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習センター、公民館などでさまざまな講座や交流活動の実施、生涯学習情報の発信を行っています。市民の受講意欲の向上と新たな学びにつなげることを目的に、令和5年度から「生涯学習講座手帳」の活用を始めました。本年度は、利用者や講師の方からの意見を参考に、より参加しやすく手軽に取り組めるよう「生涯学習スタンプカード」に改めたところ、昨年度は100部程度の配布でしたが、今年度は延べ約550部配布しており、多くの方に利用いただいています。

今月16日に生涯学習フォーラムを開催し、約120名の方に参加いただきました。フォーラムの冒頭で、社会教育功労者表彰を行い、長年にわたり社会教育や地域づくりなどに尽力された石藏信博さん、清水節子さん、畑口直美さん、廣瀬正和さん、宮前敏雄さん、村下紀三さんの個人6名と「しもプロ」の1団体を表彰しました。また、市内の2団体と大野高校、奥越明成高校の2校から充実した発表をいただきました。

「第四次大野市子ども読書活動推進計画」に基づき、市内の全小・中学校、高等学校へ毎月、図書館のお薦めの本を届ける「おとしょちゃんのうきうきお届け便」を継続して実施しています。

子どもと保護者の集いの場である「おおの天空パークOSORA」にも、年齢に応じたお薦めの本を設置し、気軽に本と出会える環境をつくりました。

さらに、来月9日には、公益財団法人 東京子ども図書館の護得久えみ子氏を講師にお招きして、保育士や保育教諭、小学校教諭、読み聞かせボランティアなど、子どもの読書活動に関わる方々を対象にした講座を開催します。子どもの読書活動の推進には、幅広く支援ができる人材の育成が必要です。今後もこのような研修の機会を積極的に提供していきます。

次に、第4の項目「文化芸術」について申し上げます。地域に大切に守り伝えられてきた風習や文化を、次世代に継承していくことを目的に定められた、結の故郷伝統文化「おおの遺産」は、平成28年度の認証開始から令和5年度までに25件の伝統芸能や年中行事を認証しています。

本年度は、「上据区の田休み」と、「太田白山神社の注連縄づくり」、「元町1区2班の火伏のご祈祷」の3件を認証しました。

今後も、本市に大切に守り伝えられてきた行事や風習、郷土料理などの認証を進め、伝統文化の保存継承を図っていきます。

大野城の築城者である金森長近公の孫の金森宗和が茶人として活躍していたことを受け、「金森宗和時代の茶道具」と題し、市民が所有する鎌倉時代から江戸時代初期にかけての茶道具10点を歴史博物館に展示しました。

今後も普段は公開されていない文化財の公開を促進し、市民の文化財に対する関心と保

護意識の醸成、来訪者が文化財を楽しく知る機会の創出を図っていきます。

次に、映画「雪の花 ーともに在りてー」の公開にかかる、大野市博物館の取組について申し上げます。

当映画は、福井藩の町医者笠原良策による天然痘のワクチン接種「種痘」の普及を題材としており、全国公開されています。

大野藩は笠原良策の支援を受けて全国でも早い段階で種痘を行っていることから、その様子を1月25日の博物館講座で取り上げ、本市学芸員が解説を行いました。

また、民俗資料館で「種痘接種済証」を来月24日まで特別公開しています。この「接種済証」は明治11年に発行されたもので、近代に引き継がれた種痘の取組の様子を知ることができます。

今後も、タイムリーな話題を積極的に取り込むことで、大野市の魅力を効果的に発信していけるよう取り組んでいきます。

以上、本市の教育行政の考え方と主な施策の概要について、述べさせていただきました。

議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、所信表明とさせていただきます。